

# 近隣密集型のオープンガーデンにみられる人と植物とコミュニティの関係 —神戸市神戸北町地区の事例から—

林まゆみ<sup>1\*</sup>・中瀬 勲<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 兵庫県立姫路工業大学／兵庫県立淡路景観園芸学校 656-1726 兵庫県津名郡北淡町野島常盤954-2

<sup>2</sup> 兵庫県立姫路工業大学／兵庫県立人と自然の博物館 669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6

## The Relationship between Human, Plants and Community with the Management of Open Garden in Neighbor Town — A Study on the Open Garden in Kobekitamachi, Kobe City —

Mayumi HAYASHI<sup>1\*</sup>, Isao NAKASE<sup>2</sup>

<sup>1</sup> Himeji Institute of Technology / Awaji Landscape Planning and Horticulture Academy

Nojima-tokiwa, Hokudan-cho, Tuna-gun, Hyogo 656-1726, Japan

<sup>2</sup> Himeji Institute of Technology / Museum of Nature and Human Activities

Yayoigaoka, Sanda, Hyogo 669-1546, Japan

(\*Corresponding author)

### Summary

Gardening has long been popular as an individual hobby. Over time greater numbers of people have created private gardens. "Open gardens" are private gardens that are open to public visitation, and the practice is growing in Hyogo prefecture. We investigated the management of the open gardens in Kobekitamachi, Kita-ku Kobe. We had the investigation by the method of hearing and questionnaire to the residents there (owners and visitors of the open garden), and tried the analysis to make it clear how the open garden influenced to the people and community. Owners of open gardens became very satisfied and became eager to increase their knowledge and skill. Nearby gardens also caused more interchange within the community. Other residents have been also influenced by open gardens to improve their gardening skills and to make the townscape more beautiful. The open gardens have caused people to be more aware of their community and to make the town clean and beautiful. The work to organize and communicate about open gardens has caused other residents to take more pride in their gardens and to give more attention to community needs.

**Keywords:** Open garden, public, management, community

### はじめに

1990年代後半から、国内各地で個人の庭を開放するオープンガーデン（オープンガーデン、以下OGとする。）がみられるようになった。もともこのOGは英国で発祥したものである。英国のThe National Gardens Scheme Charitable Trust（以下NGSとする。）が発行したイエローブック<sup>1)</sup>によると、英国のOGは英女王に関係した看護婦の退職年金基金の創設にチャリティで資金集めをするために始められたとある。慈善目的の有料である英国のOGは好評を博し、継続しながら庭園の復興や王立園芸協会との連携の中で広がりをもつようになってきた。

一方日本では、北は北海道の恵庭市、長野県の小布施町、南は宮崎県宮崎市などの他にも各地でOGが盛んに開かれており、遠来の訪問者を迎えている。インターネ

ット上のホームページでも紹介されており、ガーデニング雑誌でも大きく取り上げられるようになった（ホームページ、以下HPとする）。OGは日本においては、庭づくりの愛好家が一般に周知して、他者に向けて自分の庭を公開する形態として始まった。

日本でも上に述べたイエローブックの他に、OGに関する既往文献や研究として発表されてきた。相田らは英国におけるOGの発祥等に論を進めたり、また日本の関東などの先進事例を紹介したりしている（相田ら、2002）。関東での個別事例を示しながらヒアリング等でOGが人々との交流に役立っていることなども明らかにしている。

他の関連する研究としては、川根ら（2002）が北海道の恵庭市恵み野の庭づくりに対する意識調査を行ったり<sup>2)</sup>、中瀬・林（2002）が緑豊かなまちづくりへの促進要因等

について教育啓発や地域振興の必要性の提言を行ったりしてきた。

いずれにせよOGはまちなみの景観形成に寄与し、人々の交流を促す等さまざまな効果があると考えられる。しかし、事例を統計的に検証した研究は未だ見られない。本論ではOGがガーデニングに対してやまちなみの形成、コミュニティづくりへの意識等にどのように影響を与えているかについて検証することを目的とした。

### 調査地の概要と調査法

兵庫県下では、1995年の阪神・淡路大震災の後、ボランティア活動や花や緑のあるまちづくりに対する関心が高まるようになった(中瀬・林, 2002)。これと関連して阪神間では、多くの地域で個人の趣味であったガーデニングを広く市民に開放するOGの取り組みがみられるようになった。

兵庫県内を概観すると、1999年以降数多くのOGが開催されてきた。それらを分類すると、1) 直径数十キロメートルの地域に点在している庭や緑地を車や電車で周る広域点在型[播磨地区(直径42km), 淡路地区(同52km), 宝塚全市(同20km)], 2) 近隣地域における連続性の少ない点在型[神戸市須磨区(同5km), 神戸市北区鹿の子台等(同2.5km)], 3) それらの混在型[三田市(同10km)], そして4) 連続性のみられる近隣密集型[宝塚市山本地区(同1.5km), 神戸市北区神戸北町地区(同2km)]がある。

当研究の対象地として選んだ神戸市北区神戸北町地区(北区日の峰, 桂木, 大原を指す)のOGは「神戸北町花の会」が主催したもので、通り全体がOGになったり、高密度な参加が見られたりするなど、居住域での集中したOGの取り組みが特徴となっている。本研究では平成13年5月8日に開催されたOGの取り組みを通じて、市民がガーデニングやまちづくりにどのように関わっているか、その現状と課題を分析した(1戸あたりの面積)。またこのような個人の私的空間がまちづくりや公的な空間形成にどのように働きかけることができるかについても検討を加えた。

調査対象として神戸北町地区のOG庭主と神戸北町桂木の一般住民とを選んだ。

予備調査のヒアリング(2001年6月)は自治会関係者、OG運営関係者に対して行い、当地区の開発の背景、住民意識、まちなみの特徴等を聴取した。

次にアンケート調査票を作成して、2002年1月10日から20日に桂木2丁目と3丁目の地域の一般住民に354通を配布(手配り)して郵送を依頼し、有効回答143通を得た。また、OGの庭主については「神戸北町地区」の庭主78戸から有効回答26通を得た(第1表)。

設問は、1) 地域住民へのOGに対して、鑑賞のみで参加、庭主のみとして参加、庭主であり、鑑賞もした、

知らなかった、知っていたけれど行かなかった、に分類して参加の形態を尋ねた。またそれぞれに対し、2) 庭主に対してはOGを行ったことへの評価と反省、意見など、3) 見学した住民には前後の意識の変化、4) ガーデニングを行っている地域の一般住民の意識などについての質問を設定し、それぞれについて5の「大変そう思う」、4の「かなりそう思う」から1の「ほとんどそう思わない」までの5段階評価で回答を求めた。

またOG見学者の意識の変化については「OGをご覧になって、どんな風に感じましたか。OGを見る「前」と見た「後」では、ガーデニングに対する気持ちの変化はありましたか」という設問に対して5段階評価の推移を点数化して検討を加えた。(例:花やみどりへの好感度でOG前4, 後5では+1)次に地区住民全体に対しての設問も行った。「熱心にガーデニングを行っているか」という問いに5段階評価で回答を求めた。最後に「ガーデニングを行う中で、感じていることをお教えてください」という設問でも5段階評価で回答を得た。

### 結果と考察

ヒアリングによって次のことが明らかになった。この地域は①開発業者による均質なまちなみの形成がみられ、②建築協定が制定されているなどの影響もあり、③住民間のまちなみ形成意識が高く、④連続性のある水準の高い景観が形成されている地域である。

アンケート結果は以下のとおりである。

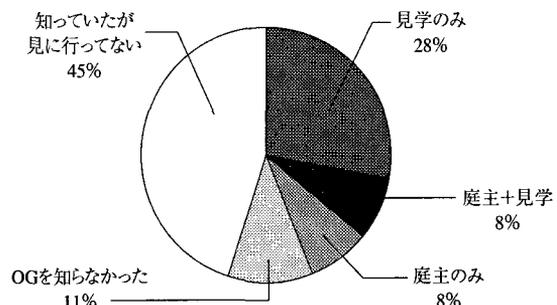
#### 1. OGへの地域住民の参加形態

「5月8日に行われた【神戸北町花の会】主催のOGをご覧になりましたか」と参加形態を問う質問に対し、見学のみは28%であった。「庭主+見学」、「庭主のみ」はいずれも8%、「OGが行われることを知らなかった」人は11%であった。「知っていたが、見に行っていない」

第1表. 調査の概要.

Table 1. Outline of the questionnaire.

	配布数	有効回答	有効回答率 (%)
一般市民	354	143	40.4
庭主	78	26	33.3



第1図. オープンガーデンへの参加形態 (N=169).

Fig. 1. Style of participation to open gardens.

人は回答者中の45%を占めていた。

アンケートを実施した地区の住民は、OGの実施を90%前後の人が認知していたが、実際になんらかの形で関わったのは半数近くの44%であった。

## 2. 庭主としてのOGの評価

OGを行った庭主に18の質問を行ない、5段階評価で回答を得た。各質問に対し肯定的な5と4の評価を与えた人の割合も合わせて第2表に示した。

OGの開催に関しては①(満足感)は73%とかなりの人が満足した。②(意欲)は58%でこれからもガーデニングを行っていききたいという人が過半数を占めた。③(広がり)は53%で近所に花や緑が多くなり、④(情報)は50%でそれらについての情報交換も達成できた人が半数を占めた。また⑤(交流)が46%であったことから、近所の人も親しくなれ、⑥(継続)は46%で半数近くの人が定期的に行いたいと考えていた。これらの結果からOGに対しては比較的高い評価が与えられているといえよう。さらに⑦(マナー)は8%でマナーが悪いと指

摘した人は少なく、⑧(安全)は15%で防犯面での不安も多くはなかった。

また、⑨(評価)は0%と庭づくりを非難された人は皆無で、⑩(運営)についてはお世話が大変とした人は2割程度いるものの、OGを行った場合のデメリットを想定した設問には総じて否定的であった。

⑪(資金)はカンパなど自分たちで調達すべきという人は24%で、行政による資金の支援を希望する⑫(資金の支援)の19%をわずかではあるが上回っていた。一方⑬(資材の支援)が27%あったことから、行政による資金の支援がある程度望まれていることがわかる。また広場や拠点施設が充実していたという⑭(拠点)は23%であったのに対し、⑮(施設の支援)は58%で行政による拠点施設の支援が多く庭主から望まれていた。これらの結果はOGでは個人に対する資金や資材の支援よりも、むしろ拠点施設等、共通の空間の支援が重要と考えられる。

情報発信に関しては、⑯(広報)は57%で、周知は充実していたとする人が多かったものの、⑰(広報技術の

第2表. オープンガーデンの庭主の意向 (N=26).

Table 2. The opinions of the owners of the garden.

項目	意見・感想	回答の割合 (%)						不明
		5+4	5 大変そう 思う	4 かなう と思う	3 どちら ともい えない	2 あまり 思わ ない	1 ほとん ど思 わない	
①(満足感) 自分の庭をみんなに見てもらえてうれしい		73	35	38	23	4	0	0
②(意欲) これからもガーデニングを行っていく意欲が沸いた		58	31	27	31	4	8	0
③(広がり) オープンガーデンの後、ご近所に花やみどりが多くなった		53	15	38	35	8	4	0
④(情報) 花やみどりの情報交換ができた		50	23	27	35	12	4	0
⑤(交流) お友達ができたり、ご近所の方と親しくなれた		46	23	23	46	8	0	0
⑥(継続) もう一度やりたい。定期的にやりたい		46	19	27	42	4	8	0
⑦(マナー) 大きな話し声やゴミ、路上駐車などのマナーが悪かった		8	0	8	8	46	38	0
⑧(安全) 知らない人がたくさん来て、防犯面で不安を感じた		15	0	15	4	35	46	0
⑨(評価) 庭づくりを批評や批判された		0	0	0	15	23	62	0
⑩(運営) 準備や当日の案内などのお世話が大変だった		20	12	8	23	46	12	0
⑪(資金) 資金はカンパなど、自分たちで調達すべきだと思う		24	12	12	35	19	19	4
⑫(資金の支援) 行政による資金面での支援が必要だ		19	4	15	35	27	8	12
⑬(資材の支援) 行政による花苗や園芸資材の支給をして欲しい		27	8	19	31	19	19	4
⑭(拠点) 広場や拠点施設は充実していた		23	4	19	50	15	8	4
⑮(施設の支援) 行政による拠点施設の整備などを支援して欲しい		58	12	46	27	4	8	4
⑯(広報) オープンガーデンのお知らせなど広報、周知は充実していた		57	15	42	15	19	8	0
⑰(広報技術の支援) マップ・パンフレットづくりなどを行政で行って欲しい		35	8	27	42	19	0	4
⑱(入場料) 場合によってはある程度入場料を有料にしたほうがよい		0	0	0	4	19	77	0

第3表. オープンガーデン見学者の意識の変化 (N=61).

Table 3. The change of consciousness of the visitors to the open garden.

項目	内容	回答の割合 (%)						不明
		+2 と+1 の合計	+2 したい 気持ちが すく 高くな った	+1 や高 くな った	0 変 わ ら な い	-1 少 し 下 が っ た	-2 下 が っ た	
①(意欲) 花やみどりに対する興味や関心、ガーデニングへの意欲		51	3	48	48	0	0	2
②(参加) うちの庭も見せたい、見に来てほしい		26	3	23	64	10	0	0
③(景観) 通りから見えるガーデニングを大切にしたい		44	8	36	56	0	0	0
④(交流) 花やみどりを通じたご近所づきあいを大切にしたい		32	2	30	69	0	0	0
⑤(知識) 花やみどり・ガーデニングの知識や技術を向上させたい		52	8	44	48	0	0	0
⑥(義務) ご近所にうちもきれいにしなくてはならないような義務感		21	3	18	77	0	0	2

支援)も35%あり、広報の支援に対する要求もかなりあった。

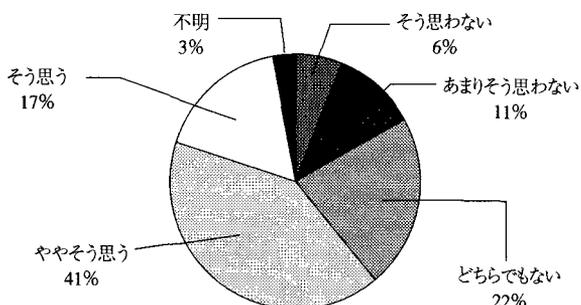
⑩(入場料)の徴収に関しては、全員が無料で良いと考えている。このことは当地では、運営費などの実費を求めたり、英国で行われているチャリティ目的での有料の公開はまだ求められてはいないことを示している。

### 3. OG見学者の意識の変化について

第3表はOGに関わる前と後での地域住民の意識を表している。特に前から後へと肯定的な意識が強まり値がプラス2および1のように変化が比較的大である回答率も示した。その肯定的な回答について述べる。①(意欲)は50%、②(参加)は26%というようにOGは半数の見学者に対して花やみどり、ガーデニングへの意欲を増し、4分の1の人が参加意欲を深めていることを示している。③(景観)は44%というように外向きのガーデニングへの意識を深め、④(交流)も32%と花やみどりを通じた交流意欲も増している。⑤(知識)は52%など、ガーデニング技術の向上心の増加も半数の人にみられる。一方、⑥(義務)は21%とご近所並にしないといけないという義務感も一定の割合でみられた。

### 4. ガーデニングに対する住民全体の意識

最後に地区住民全体に対しての設問では、「熱心にガーデニングを行っているか」という問いに肯定的な評



第2図. ガーデニングに対する熱心さの程度 (N=169).  
Fig. 2. Eagerness to the gardening.

第4表. 花と緑やオープンガーデンに対する住民の意識 (N=169).

Table 4. The consciousness of residence to the open garden.

項目	内 容	回答の割合 (%)						
		5+4	5	4	3	2	1	不明
			そう 思う	やや そう 思う	どちら とも い えない	あ ま り そ う 思 わ ない	ほ と ん と そ う 思 わ ない	
①(意欲)	花や緑に触れることが楽しい	91	66	25	7	1	0	2
②(仲間)	ガーデニング友達やグループがあると、励みになる	53	24	29	29	9	7	3
③(交流)	花の苗や種を分け合ったり、ガーデニングの情報交換も大切	67	30	37	19	6	7	2
④(コミュニティ)	花に囲まれた庭でお茶を飲んだり、おしゃべりをするのが楽しい	63	31	32	24	5	4	4
⑤(価値)	花や緑の多いまちは住宅の資産価値も上がると思う	65	41	24	22	7	4	2
⑥(経済)	資材や苗を買ったりするのにお金がかかり、大変だと思う	61	18	43	22	8	7	2
⑦(管理)	水やりや草取りなどけっこう手間だと思う	78	33	45	7	7	7	2
⑧(評価)	庭造りをあれこれ評価されたり、批判されたりして煩わしい	16	5	11	36	24	22	3
⑨(義務)	ご近所がやっているのだからやっているが、実はちょっとしんどい	9	2	7	22	27	39	3
⑩(参加)	次回オープンガーデンがあれば、庭主として参加したい	16	5	11	17	23	43	2

価を58%の人が行っている(第2図)。したがって、当地区は建築協定などがある良好な地域で、約6割の人が熱心にガーデニングを行っている花やみどりに熱心な地域であるといえる。「ガーデニングを行う中で、感じていることを教えてください」という設問でも肯定的な5と4の評価をした人の割合をみると(第4表)、次のようになった。①(意欲)は91%で高い割合で花や緑にふれることが楽しいという結果が出た。また②(仲間)は53%で半数以上の人が友達等を励みになるとしている。③(交流)は67%、④(コミュニティ)は63%という結果からも、苗や情報交換も大切、おしゃべり等が楽しい等ガーデニングを通じた楽しみや人との交流を過半数の人が肯定的に回答している。

また⑤(価値)は65%、⑥(経済)は61%という結果からは、3分の2の人が花やみどりの資産価値を意識しており、資材や苗の購入にお金がかかるとしながらも、ガーデニングに励んでいる。一方、⑦(管理)は78%、⑧(評価)は16%、⑨(義務)は9%という結果から、管理が結構手間と感じている人は多く、庭づくりを批判したり、批判されたりすることを「わずらわしい」、ご近所がやっているのだからやっているが「実はちょっとしんどい」人も少数ながら存在することが認められた。

⑩(参加)「次回オープンガーデンがあれば、庭主として参加したい」に関しては、全体の16%が参加を希望していた。

総じて、ガーデニングに対する肯定的な評価が過半数を占めている。また、交流やコミュニティの形成などまちづくりの面でも一定の効果をあげていることが検証された。手間がかかり、評価されるなどわずらわしい面もあるものの、美しいまちなみが資産価値を高め、かつ楽しみや仲間づくりのきっかけとなっていることも過半数の人に自覚されている。オープンガーデンの庭主になる意欲も充分あり(庭主の増加)、「オープンガーデンの会」の組織の充実させたり、行政の支援の強化など、有効な募集を行うことでさらなるOGへの参加が見込まれる。

## 5. クロス集計

ガーデニングを熱心に行っているかという「熱心度」と感想に関する評価とのクロス集計を行った(第3図)。熱心度が高い人を5とすると、意欲、仲間、交流、コミュニティの形成、資産価値などといったガーデニングへのプラス評価では熱心度が高い人ほど平均評価が高い傾向が出た。一方、経済的な負担が大変と考える人は熱心度1の低い人に多く、管理の手間、批判や評価が煩わしい、義務感などといったネガティブな見方に関しても、熱心度が低い人のほうが、多い傾向がみられた。

## 6. まとめと展望

近隣密集型の当地区は熱心にガーデニングを行っている人が多く良好な住宅地である。美しいまちなみ形成が資産価値を高めるといった意識が庭づくりやオープンガーデンの推進に介在している。開催意欲に関しては庭主、見学者、一般住民の順にその意欲が高く、OGそのものが参加意欲を高めてもいるといえよう。OGは、花やみどりを生かしたガーデニングや外向きの庭づくり、近隣における交流などの発展と技術知識の向上に対して意欲をもたらしていることが検証された。行政による適切な支援はOGの推進に有効であろう。しかし一部分の人たちにはこのようなガーデニングの流行やまちなみ形成、オープンガーデンなどの催しがある種の強制力をもっていると感じられている。

OG開催者の庭主は入場を有料化することについては未だ関心がなく、現時点ではあくまで無償のボランティアとして行われている。前述したように英国では慈善資金が目的の有料としたOGであるのに対して、当地のOGはチャリティ目的ではないことが明らかである。

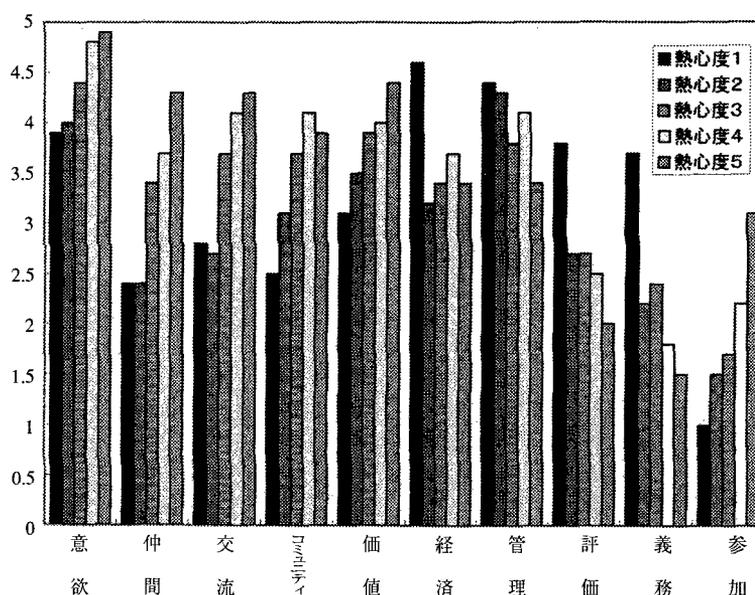
ガーデニングは個人的な楽しみだけのためのものに留まらず、まちなみ形成という公的＝パブリックな空間形成に寄与している。上甫木(1998)の研究にもあるように、まちなみ形成に積極的な取り組みを個人の庭が持ちつつあるが、これは人と植物の新たな関係の広がりを見せている。個人的に愛好する植物や庭園が地域やコミュニティ、すなわちパブリックに寄与するという広がりには、花やみどりが公共空間のみならず、個人的な園芸や庭園でも地域で共有することができるという意味を持つ。オープンガーデンの振興は、さらなるまちづくりやまちなみ形成にも有効であると考えられる。

今後はいかに、大きな労力や犠牲をはらわずに楽しくこのような地域に寄与するガーデニングの取り組みができるかについてのきっかけづくりや継続できるシステム、そして支援策などを検討することが必要である。それらを今後の課題としたい。

## 摘要

オープンガーデンの効果を検証するため、神戸市神戸北町地区で行われたオープンガーデンの庭主78戸、地域の一般住民354戸を対象にアンケート調査を行った。庭主、一般市民からそれぞれ40.4%、33.3%の有効回答を得た。

その結果、庭主としてオープンガーデンに参加した人は、高い割合で達成感を得ており、ガーデニングに対する意欲や知識、技術の向上を再認識している。また、見学者も近隣との交流や美しいまちなみ形成への寄与、花やみどりを通じてのコミュニティの形成等にも意欲を示し、良好な街区を形成している。当地区の一般の住民もガーデニングやまちなみ形成への意欲が高いことが明らか



第3図. ガーデニング熱心度別の意識の分布。

熱心度5は大、1は小を示す

Fig. 3. The consciousness according to the eagerness to gardening.

Five bars mean the variation of eagerness.

かになった。

ガーデニングがまちなみ形成やコミュニティづくりに一定の役割を果たし、オープンガーデンの取り組みが相当の労力を要しながらも人々の間で達成観をもたらし、さらなる美しいまちづくりへの意欲を高めることに大きな影響力をもつことが検証された。

#### 注

- 1) オープンガーデン。オープンガーデンとは個人の庭を広く一般に開放し、各地からの来訪者に公開する行為を指す。国内では、1997年から2000年までのあいだに11の団体が結成されている。兵庫県では2001～2002年に限っても7箇所（東播磨、淡路島、宝塚、神戸市須磨区、三田市、神戸市北区神戸北町地区、同鹿の子台）と数多く開催されている。イエローブック。英語では“Gardens of England and Wales Open for Charity”英国で出版。489p
- 2) ホームページ。オープンガーデンを紹介したホームページには以下のものがある。現在オープンガーデンは北海道、東京、岩手、宮城、神戸市須磨区、兵庫県播磨地区、岡山、北九州などで開催されている。オープンガーデン関係のリンク案内のURLは「オープンガーデンみやぎ」を始めとする<http://www.garden-miyagi.ne.jp/-6k>の他、全国の紹介では以下のものがある。<http://www.arma.co.jp/yellowbook/>

- 3) オープンガーデンの運営は個人ベースのものが多いが、兵庫県播磨地区は園芸関連産業が、北九州は造園業者が運営している。また、雑誌もプレジデント社のBISES（ビズ）など多数ある。
- 4) 一戸あたりの平均面積、約160～200㎡が多く、建築協定により道路から50～60 cmセットバックしてフェンス等を設置することなどが定められている。庭園の植栽はハーブなど洋風ものが多かった。
- 5) 庭主の増加、今回の庭主は2,400軒中78軒であったが、ちなみに16%の住宅が庭主となると384軒となる。

#### 引用文献

- 相田 昭・鈴木 誠・進士五十八。2002。英国ナショナル・ガーデン・スキームによるオープンガーデンの発祥と活動。ランドスケープ研究 65(5)：695-700。
- 川根あづさ・愛甲哲也・浅川昭一郎。2000。北海道恵庭市恵み野を事例とした、住民の庭づくりに対する意識と取り組みについて。ランドスケープ研究 63(5)：695-701。
- 中瀬 勲・林まゆみ編。2002。みどりのコミュニティデザイン。学芸出版社。
- 上甫木昭春。1998。居住環境形成に資する戸建て住宅地の庭空間の公的役割に関する研究。ランドスケープ研究 61(5)：793-796。